

平成26年度日本ウミガメ協議会年次報告

2014年10月1日～2015年9月30日

活動の概要

日本全国のウミガメ類の上陸・産卵状況（19173・10039箇所）、漂着・混獲の情報（385・351件）を収集し、日本ウミガメ誌2014に掲載し、奄美大島で開催された第25回日本ウミガメ会議において公開した。ウミガメに装着する標識の番号を管理し、全国のウミガメ関係者に8000個を配布した。ウミガメに関連する委託事業13件および助成事業12件を実施した。鹿児島県野間池と高知県室戸においてウミガメ類の混獲調査を実施し、のべ291個体を標識放流した。和歌山県南部町には、産卵期にみなべ基地を設置し、ウミガメ類の生態調査を実施した。附属施設である黒島研究所では、ウミガメ類の産卵・標識放流調査を実施するとともに、常設展示と各種イベントによって啓発活動を実施した。大阪事務局、みなべ基地、室戸、黒島研究所では専門学校生や大学生のインターンシップや研修生を受入れ、後継者の育成をおこなった。また、WEBサイト、メール配信、各種イベントを企画・参加することで、当会の活動を紹介し、普及活動を実施した。

① ウミガメ類を取り巻く自然環境の保全に関わる事業

平成 26 年度西表石垣国立公園黒島海岸漂着ゴミ清掃業務：国立公園に指定されている沖縄県竹富町黒島の西の浜、伊古栈橋周辺の漂着物を一掃した。【2014年12月1日～2015年3月31；沖縄県黒島；環境省委託事業】

② ウミガメ類の研究・保護活動の発展および育成に関する事業

- a. **全国統一標識配布事業**：1991年より日本全国で標識番号を統一し、配布・管理している。今年度は約8000個の標識を約17の個人・団体に配布した。標識の番号は2014年に10万番台に達した。しかしながら、100000番台であると、標識サイズの問題から印字が困難であるため、現在は4-5ケタの数字とアルファベット1字を割り当て、数字自体は2週目となっている。1週目とは、アルファベットの有無および1週目とは異なる素材の標識に割り当てることで識別している。例えば、番号9000は、1週目が黄色のジャンボタグであったため、2週目はインコネル9000Aとしている。【周年；大阪事務局；自主事業】
- b. **室戸岬周辺におけるウミガメ類混獲調査**：2003年より、高知県室戸岬に周辺のウミガメ類の混獲状況をモニタリング調査している。現在は、職員を常駐させ主に高岡漁港、椎名漁港、三津漁港の3つの大型定置網を対象としている。今年度は、アカウミガメ118個体、アオウミガメ68個体、タイマイ3個体、オサガメ1個体が混獲され、そのうち、約160個体に標識を装着し、放流している。【周年；高知県室戸；自主事業】
- c. **鹿児島県野間池におけるウミガメ類混獲調査**：2004年より、鹿児島県野間池のしろせ定置網に混獲されるウミガメ類のモニタリング調査が開始され、現在は当会が支援している状況にある。現地での調査は、主に漁業者である宮内氏によって実施され、鹿児島大の学生が補助している。今

年度は、アカウミガメ 16 個体、アオウミガメ 118 個体を標識放流された。【周年；鹿児島県；自主事業】

- d. **徳島県自然環境協力員育成業務**：徳島県内のアカウミガメ上陸・産卵調査等に関わる人材育成事業を行った。県内の住民から協力調査員を募集し、17 名が集まった。5 月 30 日に徳島県美波町・日和佐公民館にて、アカウミガメ調査の講習会(参加人数 18 名)を実施した。調査期間中、新たな痕跡・漂着を発見する度に、調査員から連絡を受け、それをウミガメ協議会で集計した。11 月 14 日に美波町にて調査結果の報告会を開催予定である。【5 月～11 月, 徳島；徳島県委託】
- e. **沿岸漁業海亀混獲防止対策事業**：平成 25 年度より、水産庁・東京海洋大学・漁網を取り扱う企業と共同で、ウミガメ類の混獲防止対策事業をおこなっている。当会は、ウミガメ類の産卵状況の把握、海亀脱出装置の開発を行った。【周年；全国；水産庁委託 27 年度継続】
- f. **在日米陸軍トリイビーチウミガメモニタリング**：2008 年より、沖縄県読谷村にあるトリイ基地内の砂浜において、ウミガメ類の調査・保護活動を行っている。現地の調査は、当会の職員と琉球大学ウミガメ研究会で分担している。2015 年～2017 年まで 3 年契約である。【周年；沖縄県読谷村；在日米軍委託】
- g. **米国西部太平洋区漁業管理評議会 論文執筆**：全国の漁港で沿岸漁業者を対象に聞き取りにより実施したウミガメ類の混獲の実態調査の結果を論文にとりまとめた。タイトル：「漁業者への聞き取り調査から見る日本の沿岸漁業とウミガメの関係」(雑誌：「野生生物と社会」Vol.2(1))【周年；大阪事務局】
- h. **損保ジャパン CSO ラーニング制度インターンシップ受け入れ**：損保ジャパンから派遣された学生 1 名のインターンシップを行った。今年は大阪事務局と和歌山県みなべ町の産卵調査で受入れた。【2015 年 4 月 1 日～2015 年 12 月 31 日；大阪府・和歌山県南部町；損保ジャパン CSO ラーニング制度助成】
- i. **新石垣空港に隣接する砂浜におけるウミガメ類の上陸産卵状況**：沖縄県が発注している石垣新空港の開設に伴う環境アセスメントの一環である。下請け事業として、新空港に隣接する砂浜のウミガメ産卵状況をモニタリング調査している。【2015 年 5 月 1 日～2015 年 10 月 31 日；沖縄県石垣市；沖縄環境調査株式会社委託】
- j. **平成 26 年度 崎山湾・網取湾自然環境保全地域におけるウミガメ生息状況等調査**：西表島の崎山湾・網取湾において、アオウミガメの 30 頭の捕獲調査を実施し、甲長組成、胃内容物などを調べ、標識放流した。【2014 年 12 月 1 日～2015 年 3 月 31 日；沖縄県西表島；環境省委託】
- k. **みなべにおけるウミガメの保護調査研究および教育啓発活動**：和歌山県みなべ町千里浜において、ウミガメ類の上陸・産卵調査と食害防除・孵化率調査を、みなべ町ウミガメ研究班、青年クラブみなべ、ライオン大阪工場ボランティアと共同で実施した。上陸・産卵数はそれぞれ 201 回と 91 回であった。教育委員会に産卵見学申請をした一般を対象に観察指導を行った(約 1200 名)。本事業は下記の実習の受入および支援を受けた【2015 年 6 月 9 日～2015 年 9 月 31 日；和歌山県みなべ町】。
ア. 大阪経済大学ボランティア論実習受け入れ【助成】

- イ. 帝京科学大学サルカメ実習（みなべ）受け入れ【委託】
- ウ. 岡山理科大学みなべ実習受け入れ【委託】
- エ. みなべ町千里浜におけるウミガメ保護調査【町補助】
- オ. ライオン大阪工場のウミガメ保全活動の企画・運営準備【助成】
- l. **種子島のウミガメ調査**：三菱重工株式会社の支援によるアースウィッチ・ジャパンのプロジェクトとして、ボランティアとともに種子島におけるアカウミガメの個体識別調査を実施した。産卵最盛期の6月末と7月初旬にそれぞれ2晩、長浜海岸を踏査し25個体を識別した。このうち、1個体は屋久島での標識放流個体であった。【2015年4月-7月；鹿児島県種子島；アースウィッチ・ジャパン助成】
- m. **在沖米総領事による黒島研究所への補助事業**：在沖米総領事であるドローレス・ブラン氏から、黒島研究所の施設改善および職員のトレーニング費用が支援される。これは、ドローレス氏はもともとブラジルでウミガメの保全活動をしており、黒島に在所した際に、研究所の老朽化およびウミガメの取り扱いについて問題を感じたためである。【2015年9月1日～現在；黒島研究所；在沖総領事助成】
- n. **沖縄島の人工海浜におけるウミガメの産卵状況調査**：沖縄本島にある人工海浜約40か所のウミガメの上陸・産卵状況を調査した【2015年5月1日～2015年11月31日、沖縄県沖縄島；那覇青果助成】
- o. **平成26年ウミガメ類の生態調査を通じた自然環境保全への啓発活動**：冬休み・年末年始・春休み、GWに黒島研究所で開催されるウミガメ勉強会（ウミガメ放流を含むイベント）とアオウミガメ1個体の衛星追跡調査を実施した。ウミガメ勉強会は約40日間開催し約500名が参加した。アオウミガメは4-6月の3か月間追跡した。なお、本事業は大学の研究者と民間組織が共同で申請する必要があるため、東京大学と黒島研究所の共同事業である。【2014年10月1日～2015年6月30日；黒島研究所；W-BRIDGE助成】
- p. **平成27年ウミガメ類の生態調査を通じた希少種保全への啓発活動**：上記の助成事業の継続事業である。夏休みにウミガメ勉強会を42日間実施し、約880名の参加があった。10月にアオウミガメ1個体の発信機を装着し、追跡調査中である。【2015年7月1日～現在；黒島研究所；W-BRIDGE助成】
- q. **神戸市ウミガメエコツアー**：神戸空港にあるラグーンでウミガメを中心とした啓発活動を、2014年11月に実施し、計200名ほどが参加した【2014年11月、神戸市；神戸市委託】

③ 日本ウミガメ会議の開催に関する事業

- a. **第25回日本ウミガメ会議（第25回日本ウミガメ会議 in 奄美）の開催**：2014年11月28-30日に奄美大島で開催し、約200名が参加した。会議に先立ち8校で出前授業を実施した。28日は、砂浜観察会と招待講演を行った。29日午前は、全国のウミガメの産卵状況、混獲および漂着情報のとりまとめが報告された。午後はウミガメ卵の食害に関するシンポジウム、口頭発表5題、ポスター発表21題があった。30日午前、口頭発表10題があったのち閉会となった。会議の

資料として日本ウミガメ誌 2014 を作製した。【2014 年 11 月 28 日～2014 年 11 月 30 日;鹿児島県奄美大島】

- b. **第 26 回日本ウミガメ会議（第 26 回日本ウミガメ会議 in いちのみや千葉）の開催準備**：2015 年 11 月 27-29 日 千葉県一宮町で開催されるウミガメ会議開催の準備および 2015 年の日本のウミガメ類の産卵状況、漂着・混獲のまとめをおこなった。【2014 年 12 月 1 日～現在;千葉県一宮町】

④ 会員および関係団体等との相互連絡と情報の収集及び提供に関する事業

- a. **全国のウミガメ情報収集と速報**：ウミガメに関わる個人・団体間での連携と情報の即応性を高めるために、電子メール・ファックスなどを利用し、ウミガメの産卵情報を中心とした情報を不定期に配信した。今年度は 14 回 配信した。【周年; 黒島研究所・大阪事務局; 自主事業】
- b. **マリンスタートラナー発行**：日本ウミガメ協議会の活動を広く周知するために、会員向けの機関紙マリンスタートラナーの 20 号を発行した【2015 年 10 月 31 日発行; 黒島研究所; 自主事業】。
- c. **ホームページなどの広報活動**：当会の目的と活動状況を、一般に広く公開するため、ホームページによる情報発信を行った。【周年; 黒島研究所・大阪事務局; 自主事業】
- d. **平成 26 年度重要生態系監視地域モニタリング推進事業（ウミガメ調査）**：本事業は、国内の様々な生態系に忍び寄る変化をいち早く察知するべく、環境省が多くの調査主体の協力により実施している包括的生態系モニタリング事業で、当会はそのうちウミガメの上陸産卵モニタリングと関連情報の調査とりまとめ等を担当している。地域性や産卵規模、継続性などの観点から選ばれた約 40 箇所について、上陸産卵状況に加え、砂の堆積や温度などの環境について独自の調査を実施し、地域ごとに整理・分析した。また、毎年地域ごとに順次実施している情報交換会については、1 月に種子島にて開催し、種子島におけるこれまでの調査研究や保護活動の流れを整理するとともに、各地の状況や懸念される様々な問題について共有した。平成 27 年度は、これまでの調査体制の見直し、データ公開に賛同する地域に参加を呼び掛ける公募制による新体制を目指して調整をはかっている。【2014 年 10 月 1 日～現在; 大阪事務局; 環境省委託】

⑤ 情報誌の作成に関する事業

- a. **うみがめニュースレター発行支援**：うみがめニュースレター編集委員会が発行している情報誌「うみがめニュースレター」の原稿を掲載するとともに、発行経費を支援した。事業年度中に No.100, 101, 102 の 3 号を発行した。【周年; 黒島研究所; 自主事業】
- b. **日本のアカウミガメの上陸産卵状況のとりまとめ**：全国のアカウミガメの上陸産卵情報は、ウミガメ協議会で毎年集計はしているものの、個別の砂浜の状況については、報告書や内部資料等への掲載にとどまり、引用可能な形式で公開出版されることは稀である。そこで、2002 年に出版した、「日本のアカウミガメの産卵と砂浜環境の現状」以降の情報を更新し現状を俯瞰するための書籍の出版を計画した。主な地域の調査者には執筆依頼を終えた。2016 年夏の出版の予定である。【周年; 大阪事務局; NFWF 助成】

- ⑥ 前各号に掲げるものの他第3条の目的を達成するために必要な事務および実務に関する事業
- a. **黒島研究所における調査・啓発活動**：附属施設である黒島研究所において、黒島西の浜・西表島ウブ浜・サザレ浜におけるウミガメ類の上陸・産卵状況の調査を実施し、延べ上陸109回うち産卵65回を記録した。また、ウミガメ類の103頭を計測・標識放流した。研究所は博物館類似施設であり常設展示室を設け、各種イベントを開催することで、一般への啓発活動を実施した。さらに、博物館実習・インターンシップ・研修ならびに研究者の受け入れをおこなった。今年度の入館者数は・・・名、研修の受入は40名、利用した研究者は7名であった。【周年；黒島研究所；自主事業】
 - b. **物品販売**：黒島研究所において来館者に物品販売を行った。また、第25回日本ウミガメ会議、くろしお祭り(10月26日室戸)、灯台祭り(11月2日室戸)、最御崎寺祭り(1月1日室戸)、室戸観光開き(1月31日室戸)、室戸トライアスロン(5月9日室戸)、とんがり市(9月20日室戸)においてブースを展開した。さらに、WEBサイトにおいてもネット販売をおこなった【周年；黒島研究所・大阪事務局・室戸；自主事業】
 - c. **紀宝町ウミガメ公園職員派遣**：紀宝町にあるウミガメ公園に、飼育担当者を派遣するとともに、施設運営について専門的な提案を行った【周年；三重県紀宝町】
 - d. **豊島(株)ブルーオーシャンプロジェクト関連イベント企画・運営**：豊島株式会社が企画するオーガビッツの商品を通して環境保全団体を支援するプログラムで、日本ウミガメ協議会の活動が支援された。この「Blue Ocean Project」の活動に共感していただけるブランドの製品に基金付下札をつけられ、1枚につき10円が当会に支援された。【周年；全国】
 - e. **大阪 ECO 動物海洋専門学校講師業務**：大阪にある専門学校に講師を派遣した。【周年；大阪】